

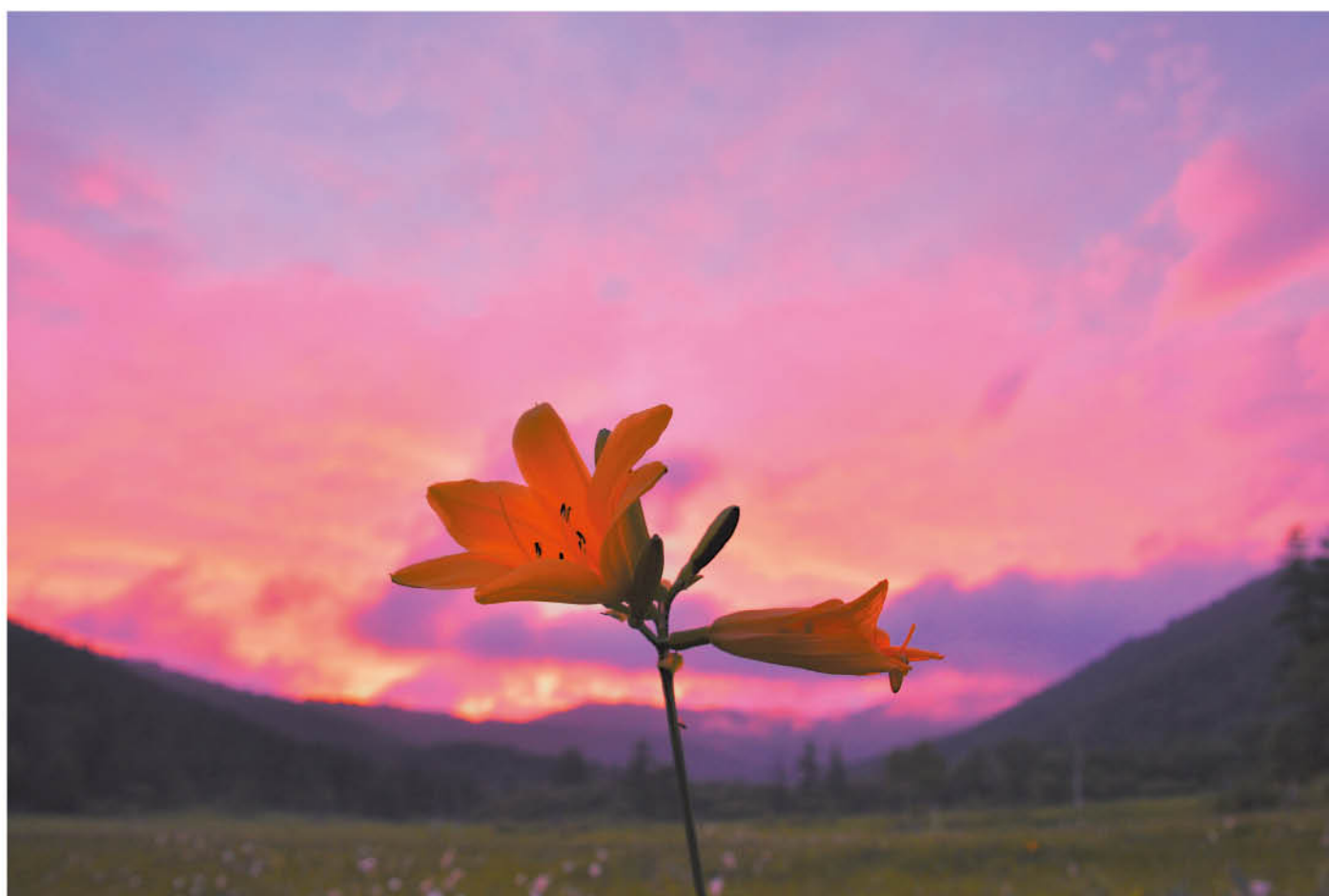
はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集 大江湿原—その知られざる魅力—
- 04 2020年シーズン～コロナに負けない～
- 05 ビジターセンターへ、ようこそ！
 - ・尾瀬山の鼻ビジターセンター
 - ・尾瀬沼ビジターセンター
- 06 現地情報
 - ・原をわたる風だより
 - ・おこじよだより
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 尾瀬のミニ観察《総集編》⑦
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2020.8 vol.43
(公財)尾瀬保護財団



研究見本園のニッコウキスゲ 撮影日：令和2年7月9日

【特集】

大江湿原——その知られざる魅力——

尾瀬沼周辺を代表する湿原として、「大江湿原」がよく知られている。

大江湿原では、多くの花々が咲き誇り様々な生き物が見られる。また、多くの人々が行き交う場所でもあり、多くの歴史が残っている。

尾瀬沼ビジターセンターでは昨年度、「大江湿原——空から見た大江湿原——」という企画展が実施され、私もその企画展の作成に参加した一人である。

ここでは様々な面から「大江湿原」の知られざる魅力を紹介したい。

【大江湿原の植生】

大江湿原は尾瀬ヶ原と比べると小さいが、尾瀬沼周辺ではもっとも大きな湿原である。標高が1、665mと尾瀬ヶ原より高く、周囲は森林と尾瀬沼に囲まれている。湿原の中心部には大江川が流れており、大江川の流れと尾瀬沼の水位の変化などにより植生に変化が生じる。上流から最下流部に渡って様々な種の植生が見られる。

まず下流から上流部では、残雪期の高水時や洪水時に頻繁に水に浸かることから競争に強い種に優占されることはなく、水を好むミズバショ



大江湿原の植生

ウや、水もある程度ある中間的な湿原を好むニッコウキスゲなど、その場所に適した種が変化に富んで生えてくる。

同じ下流から上流部でも残雪期や洪水時も水が浸からないところは、ワタスゲの群落など特定の種が安定した植生となっている。

最後に大江川の最下流部であるが、ここは下流、上流に比べて水の影響をより受ける。完全に水に浸かってしまうこともあれば、全く水に浸からない時もある。この過湿な湿原にはシカの食害が心配されているミツガシワやクロバナロウゲなどの希少な植物が生えている。

一つの川が与える影響の大きさを物語っていると同時に、そこに咲く花々は尾瀬ヶ原に負けないほど多種多様であり、それらが織りなす四季も大江湿原の魅力のひとつである。

【戊辰戦争土塁跡——150年前の風は今も吹いている——】

戊辰戦争当時、会津軍は、新政府軍が会津と沼田を繋ぐ「会津沼田街道」を通じて攻めてくることを予測して5つの土塁を設けたと言われているが、今現在、残っているのは大江湿原のこの跡だけである。

万全に備えたにも関わらず、新政府軍は一向に攻めてくる気配はなかった。そこで会津軍は尾瀬沼から三平峠を越えて戸倉に向かい、新政府軍が彼らの本陣、土出・古仲にある大圓寺で宴会や風呂支度などをしている最中に奇襲攻撃をしかけ、一方的な圧勝をする。これが1868年7月10日（旧暦5月21日）の戸倉戦争である。この後は尾瀬の中での大規模な戦闘はなく、偵察隊同士の小競り合いを繰り返していた。

しかし、8月の終わり、新政府軍による会津若松への侵攻から戦局は悪化した。檜枝岐村から兵を引き上げ鶴ヶ城へ戻るも、同年11月6日（旧暦9月22日）、鶴ヶ城は落城し会津軍は降伏した。

大江湿原に土塁？！



戊辰戦争土塁跡①



戊辰戦争土塁跡②

武士も農民も子供も関係なく、多くの命が失われた。この土塁跡もいつしか自然に帰り、積み重なる歴史と共に忘れ去られてしまう。秋風そよぐ湿原を歩き、そこに立ち止まり想いを馳せる。忘れてはならない歴史と150年前の風は今もそこに吹いている。

【大江湿原のシカ対策】

尾瀬でシカが確認されたのは1990年代半ばと言われている。原因として、温暖化に伴う気候変動により尾瀬の雪が少なくなり、ニホンジカの生存率が上がったことや、侵入が容易になったことが主にあげられている。

それらの観点を元にGPSを使用した行動調査などを行った結果、シカは春から秋の間は尾瀬で生活し、冬になると日光や足尾へ約30km近くの距離を移動していることが判明した。尾瀬での頭数調査によると尾瀬沼は特に変化は無いが、尾瀬ヶ原に関しては増加傾向にあると言われている。ニホンジカが尾瀬に与える問題は主に「食害」である。特にニッコウキスゲの食害が顕著であり、掘り起こしによるヌタ場の形成や踏圧被害などにより、元の植生に戻ることが難しいほどのダメージを与えている。

対策として、2014年より大江湿原の周囲を囲むように約3.5km

にもわたる防鹿柵が設置されている。この柵のおかげで大江湿原に咲くニッコウキスゲなどの希少な植物への食害や、湿原の踏み荒らしなどを防ぐことが可能となった。この防護柵は、一般のボランティアの方々の協力を得て設置されているものであり、このようなケースは全国でもなかなか見られない。

シカの問題に関しては誰が悪いとはなかなか言えない。シカは生きるために食べている。そしてそれが悲劇的にも尾瀬の貴重な植生を破壊し、長い年月をかけて出来上がった湿原を壊して不可逆的な影響をもたらしているという結果に結びついてしまった。

シカが尾瀬に侵入してくる主な原因である「地球温暖化」の進行を増幅させたのは我々人類に違いない。しかし、今日までの豊かな経済発展の恩恵を受けて生活している私たちが過去の人々を責められるのか。

この冷たい柵に触れるたび、考えさせられる。シカと人、尾瀬と人、人と地球…。尾瀬のシカ問題は実は単純なものではなく、地球から人類への警鐘のひとつなのかもしれない。

【結び】

テレビやラジオなどの様々なメディアで取り上げられる「尾瀬」と言えば、尾瀬ヶ原であることが多いが、大江湿原には環境問題の最先端をゆくシカ対策や、歴史的な遺跡として今もなお残る戊辰戦争土塁跡、尾瀬ヶ原にも負けない多種多様な花が咲く植生。たった1時間弱で奥まで行ける道のりではあるが、それだけでは語りきれない様々なエピソードがここにはある。そしてそれはこの大江湿原に限らず、尾瀬全体がそうであろう。「何度来ても尾瀬は飽きない。」「決して色褪せない。」「その理由はここにあるのかも知れない。」

(川上 藍)

ニホンジカ(ウシ目シカ科)



- ◆体長90cm~150cm
- ◆体重25kg~130kg
- ◆繁殖力が高い。
(初産齢は2歳。出産期は初夏繁殖期は秋)
- ◆平均寿命4年
(長いものは16年)

近年、尾瀬に入ってきているニホンジカ

2020年シーズン ～コロナに負けない～

2020年、難しい状況の中で尾瀬シーズンの幕開けとなりました。新型コロナウイルスによる影響等について、これまでの状況を記録しておきたいと思います。



☑ 約2か月の間、 「入山自粛」をお願いしました

関係機関と調整の上、4月17日(金)から6月18日(木)まで、当財団HP等で「入山自粛のお願い」をさせていただきました。その後、非常事態宣言解除等を踏まえ、「入山にあたってのお願い」に表現を変更しました。

☑ 福島県檜枝岐村では、村内施設の 営業自粛要請が行われました

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、4月17日(金)から6月30日(火)まで村内施設は営業を自粛することとなりました。

☑ 鳩待峠までの道路開通が、 約1か月後ろ倒しとなりました

開通予定が4月24日(金)から5月22日(金)に延期となり、駐車場の閉鎖等も行われたことで、5月22日(金)まで尾瀬への入山が物理的に困難となりました。

☑ 多くの施設が 一時休業となりました

道路開通の延期や地元自治体からの自粛要請等を踏まえ、山小屋・公衆トイレ等の施設が一時休業となりました。今シーズンは営業しない山小屋や休止する施設なども見られています。

☑ 鳩待峠までの道路開通後、 入山者への啓発を行いました

戸倉駐車場では環境省、群馬県、片品村、尾瀬保護財団が連携し、鳩待峠では群馬県警察、東京パワーテクノロジー(株)が連携し、入山者への啓発を行いました。

現在の状況は、当財団HPに掲載しております。お越しの際は最新情報をご確認いただくようお願いいたします。

感染拡大防止のためのお願い

① 体調に不安がある方は、 入山しないでください

従来どおりの遭難救助はできません。当日検温を実施するとともに発熱や咳等の症状がある方は入山しないでください。



咳が出る

熱がある

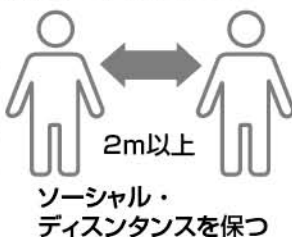
② 必要に応じた マスク等の着用をお願いします

施設内や乗合バス・タクシー内、人とのすれ違い時などにはマスク等を着用し、咳エチケットにご配慮ください。熱中症にもご注意ください。



③ 身体的距離を確保してください

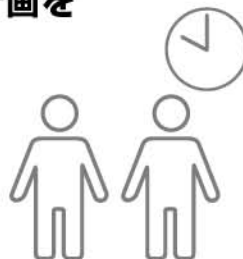
他の方との間隔は2m以上、余裕のある距離を保ってください。尾瀬の木道は1基(1本)約4mが目安となります。



ソーシャル・ディスタンスを保つ

④ 余裕のある登山計画を立ててください

マスク等の着用や身体的距離に配慮した登山は時間がかかります。無理のない行程を計画してください。



これまでのように尾瀬を楽しむことが難しい状況ではありますが、利用される方々のご理解・ご協力をいただきながら、コロナ禍を乗り越えていきたいと思っております。このような状況がいつまで続くか分かりませんが、再び多くの方々に尾瀬を安心して楽しんでいただける日が一日も早く来ることを願っています。



尾瀬山の鼻ビジターセンター

2020年の春は新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、全国的に外出自粛であったり在宅勤務であったりと、その対策に終始する事となりました。

尾瀬も例外ではなく、山の鼻ビジターセンターも例年ですと5月2週目には開所式を迎え、ミズバショウの開花に合わせて来られる入山者の対応準備に右往左往している時期には、わずかに来られる方のため開けていた公衆トイレの管理をすくうにしました。

山の鼻ビジターセンターの開所については、手探り状態のまま新型コロナウイルス感染症防止のための準備をして、6月1日にオープンとなりましたが、昨年までの展示をガラリと変え、情報提供をメインとした展示となりました。

尾瀬ヶ原、至仏山など地域別の開花状況や、山の鼻ビジターセンターに常駐する管理員のおすすめ箇所の紹介の他、尾瀬全体を情報収集した情報誌の閲覧などができます。

残念ながら、動物のふれあいコーナーや記念スタンプコーナーなど、手の触れる展示は今年度すべて休止していますが、建物入口には消毒液を設置し、皆様に手指消毒やマスク着用のご協力をいただきながら、尾瀬に来られる皆さまに安全に楽しんでいただけるよう配慮しています。

また、7月1日より夜のスライド上映会や、朝の観察会のイベントも開始しました。ご参加いただく皆様には検温等、感染拡大防止についてご協力いただき、人数限定（事前予約も受付）での実施となっております。

夜のスライド上映会は金曜日と土曜日の夜、及び祭日前夜の18時15分～18時45分（約30分）に実施しますが、人数限定のため入場できない場合もございますので、お早めにお申し込みいただければと思います。

朝の観察会は、土曜日と日曜日の朝、及び祭日の7時15分～8時00分に実施しています。こちらも前述のとおり感染拡大防止についてご協力いただいております。

それぞれ、個性豊かな管理員が様々な視点で解説しておりますので、お立ち寄りいただきご参加いただければ幸いです。

全世界が新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け尽力していますが、当ビジターセンターでもできる限りの対策を講じ、皆さまにより深く尾瀬をご理解いただけるよう尽力してまいります。



ビジターセンターへ、ようこそ!



尾瀬沼ビジターセンター

燧ヶ岳の足元にある「尾瀬沼ビジターセンター」は、昭和59年に環境省によって尾瀬沼の東岸に設置されました。尾瀬沼と東北以北最高峰の燧ヶ岳、ニッコウキスゲの美しさで知られる大江湿原をはじめ、広大な自然に四方を囲まれたビジターセンターです。

利用者の皆様に好評の尾瀬の自然を解説する朝のミニツアーと夜のスライドショーなどのイベントですが、今シーズンは新型コロナウイルス感染症拡大防止のために内容を変更、または休止しています。朝のミニツアーは、予約制で5名様までとして実施しています。ミニツアーに参加される方には、マスク着用のほか、住所、氏名の記入、検温の実施をお願いしています。

また夜のスライドショーについては、残念ながら休止しています。人気の尾瀬沼ビジターセンター限定のDVD上映も休止しています。その他の屋内イベントについても休止とさせていただきます。

ビジターセンター内の展示も新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、大幅に変更を加えました。展示室の入口正面には、手作りの実物大の歩荷さん人形を展示し、中央には昔の尾瀬の様子を紹介する「尾瀬の昔写真展」を、左側の壁面には長さ4mの巨大な空撮写真「空から見た大江湿原」、この空撮写真でシカの被害や成獣戦の土塁跡などをわかりやすく紹介しています。

いろいろな動物の毛皮に触れることができる動物の展示については、すべての動物の毛皮をガラスケース内に移して展示しています。

その他、燧ヶ岳、ツキノワグマ展示、野鳥などの展示も修正を加えて展示しています。3密にならないように気をつけながら、楽しんでいただきたいと思います。

尾瀬にお越しの際の情報収集には、尾瀬保護財団ホームページ、インスタグラムや尾瀬沼ビジターセンターのフェイスブック、ツイッターをご覧ください。現地より毎日更新される最新の情報をお届けしています。皆様とお会いできる日を楽しみにしています。



原をわたる風だより

山の鼻ピジターセンターより

「すべてが未経験」

今年度より山の鼻ピジターセンター所長を仰せつかった西澤です。

2年ぶり2度目のピジターセンター勤務となりましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で例年通りの開所ができず、対応についてもすべてが未経験であり、戸惑いながらのシーズン開始となりました。

スタッフ一同、新型コロナウイルス対策については万全を期して勤務しております。ご来場いただき皆さまにもご協力をいただきながら、尾瀬を楽しんでいただけるよう尽くしてまいります。

(西澤 政春)

静かな尾瀬

私は長年尾瀬と関わってきましたが、こんなに静かな尾瀬を体験したことはありません。

今年は冬季に降雪が少なく、また、新型コロナウイルスの影響で山の鼻ピジターセンターへの入山が遅れた事もありましたが、入山時(5/21)の尾瀬ヶ原は残雪が無く、ミズバショウの見頃になっていました。

例年ですとハイ



カーが多く訪れる時期ですが、誰一人いない静まりかえった尾瀬ヶ原で、野鳥や雪解けで増水した沢の音が耳に入ります。また、人が居ないことで、二ホンシカやツキノワグマが多く出没していました。

夏のシーズン(ニッコウキスゲ)を迎えたこの季節も、週末に多少ハイカーが訪れる程度で、静寂な尾瀬のシーズンです。

(笹原 宗利)

「非・日常の中の日常」

みなさんも実感している通り、今年は尾瀬だけでなく、すべての山岳地で異例のシーズンとなりました。私たち人間にとつてそれは非・日常であり、今まで当たり前前に自然をたのしめたこと、友人と一緒に色んな山域に行つて山をたのしめたことがどれほどありがたかつたことを思い知らされています。

ただ、自然の営みは当たり前のように自然にとつての日常を送っています。いつか、尾瀬にもこんなシーズンがあったと日常を取り戻せるようにわたしも自然のようにしたたかに、非・日常を切り抜けていかなければ、と思わされる

今日この頃です。

(萩原 舞)



「尾瀬らしくない尾瀬」

今年が2年目の坂上です。大変な年となりましたが、今年も尾瀬の中で働くことが出来ることを、とても嬉しく思います。

今年のシーズン初めは入山者がほとん

ど居なく、静かなミズバショウの景色を眺めたりしていました。こんなに人いない尾瀬は何十年ぶりのだろうか?そして人の居ない尾瀬は尾瀬らしくないなと思いました。

徐々に尾瀬を訪れる人の数は回復してきてはいますが、未だ新型コロナウイルスが猛威をふるつておりますので、尾瀬に來られる時は感染対策などの準備の徹底をお願いいたします。

(坂上 修司)

「今年は晴れ女」

去年の私は雨女で、終ぞ至仏山に登ることが出来ませんでした。今年は無事登頂することが出来ました。梅雨の真最中だと言つのにちょうど晴れてくれたので、この日は本当に美しい景色を見せて貰いました。今年は晴れ女かもしれせん(笑)。

新型コロナウイルスの影響であたふたとする私たちですが、尾瀬は相変わらずの様子で迎えてくれました。鳥やカエルの声を聞いたり、植物たちに出会うと、世界中で騒がれている話題が嘘のように感じることもあります。しかし油断せず、感染対策に努めていきたいと思えますので、尾瀬にいらした際は是非山の鼻ピジターセンターへお越しください。

(石川 知恰)

「あらためて知る尾瀬」

新型コロナウイルスの影響で上山が予定よりも遅れましたが、尾瀬山の鼻ピジターセンターに勤務することが出来、尾瀬での生活が始まりました。玄関を出ると、至仏山がすぐ近くにそびえていて尾瀬ヶ原が広がっている。そんな夢のような環境で生活が出来、そこをフィールド

として仕事が出来ることが喜びを感じています。

今まで何度となく訪れていた尾瀬ですが、知らなかつた事、気がつかなかつた事ばかりで、毎日新鮮な発見があります。一日一日と変化をしていく植物や日々違った光景を見せてくれる景色に感動しています。今まで鈍っていた感性が刺激されて、気持ちも若返るようです。

皆さんに色々教えて頂きながら尾瀬についての知識を深め、来訪者の方々に尾瀬の素晴らしさについて伝える事が出来る様になりたいと思います。

(加藤 揚子)

広大な山の懐に包まれて

今年の7月から山の鼻ピジターセンターに赴任しました高橋法人です。昨年までは北海道で自然環境の保全や調査に携わっていました。

北海道では広大な山域が広がる大雪山系や、タンチョウツルが生息する釧路湿原が有名ですが、本州の山中にも広大な山岳湿原が横たわっていることに驚きを感じています。尾瀬で見られる植物には北海道で見られるものが局所的に分散しており、当地に赴任したのも何か縁を感じます。

利用者の皆様に尾瀬の素晴らしい自然を感じていただけるよう、取り組んでいきたいと思います。

(高橋 法人)



現地情報

おこじよだより

尾瀬沼ビジターセンターより

3月、5月からの尾瀬のシーズンに向けて準備をすすめていたところ、まさかの新型コロナウイルスの世界的大流行。当初、今シーズンはビジターセンターを開所できないのではという話も聞こえてきました。いろいろな新型コロナウイルス対策をとり、とうにか7月1日に開所することができ一安心しています。

またビジターセンターでは例年たくさんイベントを企画していますが、今シーズンはほとんどのイベントを休止しています。ミニツアーだけは参加人数を大幅に絞るなどの対策をとることで実施しています。多くのイベントを実施できないのは寂しい限りですが、出来る範囲内で対応せざるをえない状況です。

残りのシーズンも事故・怪我等のないように過ごし、11月には職員全員と無事に下山したいです。

(阪路 善彦)



3月に尾瀬の麓の片品村にある丸沼高原スキー場に行きました。ゴンドラで山頂駅に着いたら、快晴で360度展望が開けていました。正面には大きく日光白根山があり、北に目を向けると見慣れた

燧ヶ岳、至仏山が見えました。尾瀬の山を離れたところから見たのは初めてです。

遠くから知っている山を見つけるとなぜかうれしい気分になります。尾瀬の山は他にどんな所から見ることができなのでしょう。ご存じの方はぜひ教えてください。

(中馬 慎二)



8年ぶりの佐渡の初夏の季節を楽しみながら、尾瀬に行けるのはいつかいつかと待ち遠しく思いながら、在宅勤務をしておりました。

新型コロナウイルス流行の影響により5月21日からの入山、様々なことが今まで通りにはいかない難しさを感じながらも、尾瀬の変わらない自然の姿や多くの人々の支えに深く感謝しています。

どうかいち早く、新型コロナウイルスの流行が治まる事を願いながら、元気に頑張ってくださいと思います。

(川上 藍)



少し早い花たちの目覚めになかなか気持ちがいっつけず、ミスバショウが終わったと思ったら、もう夏の花の盛りが始まります。

今年は新型コロナウイルスの影響で例年より遅い開館となり、イベントも縮小して行われたり、異例の年となりました。それでも変わらない尾瀬の自然美にしばし癒されおいでいただきたいと思

います。顔はマスクで半分隠れていますが、ビジターセンターにて笑顔でお迎え致します。今年は展示室を管理員みなで頑張ってくださいね！

(大澤 未奈)

2回目の勤務になる渡邊です。

最近、異常気象という言葉をよく耳にします。豪雨災害とか少雪など、原因は地球温暖化にあるようです。でも、本当の原因は、人間が自分に都合のいい豊かさを求めて生活や社会の環境を作り変えてきた、そのしつぱ返しを受けているのかもしれない。

人間にとって本当の豊かさとは何なのか、尾瀬にお出でになる多くの皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。通称「なべさん」に気軽に声がください。

(渡邊 寿敏)



尾瀬沼ビジターセンター1年目の齋藤です。普段は東京西域(高尾山等)を主なフィールドとして四季折おり山野草巡りをしています。

尾瀬地域は日本海気候に属するため、普段親しんでいる植物とは異なる新たな出会い、尾瀬沼と尾瀬ヶ原の標高によるさまざまな植生の違いなどを日々体験させていただいています。

尾瀬で巡りあえた動植物、豊かな自然、春夏秋冬が半年間に凝縮されたさまざまな魅力を、尾瀬を訪れるみなさんに少しでも多く満喫いただけるようお手伝いさせていただきます。尾瀬沼ビジターセンターへお越しいただいた際は、是非お気軽に声をかけ下さい。

(齋藤 孝)

世の中は新型コロナウイルスの話題で持ち切り、そんな中6月頭に尾瀬沼へとやってきました。予定よりも1か月遅れで尾瀬に入ったためか雪もほとんどなく、尾瀬の代名詞であるミスバショウが迎え入れてくれました。

地元が九州なので見られる植物が全く違い、見るものすべてが新鮮で、勉強の毎日です。また、地元にはクマがないので山ではクマ鈴を付けずに歩いていますが、今ではクマ鈴がないと心細い自分がいいます。

尾瀬で感じたこと、学んだことを自分の言葉で伝えられるよう頑張りますので、尾瀬にいらした際はビジターセンターにお立ち寄り頂けると嬉しいです。

(緒方 亜佑美)



尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

ボランティア活動の休止と一部再開について

例年5月中旬から始まる尾瀬ボランティアの活動は、今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て休止していました。8月1日からは、自然解説活動（環境学習ミニガイドツアーやお話ボランティア）など一部の活動を除き、活動を再開しています。

今後の活動は、10月中旬まで、入山口啓発活動、巡回清掃活動などの環境美化活動を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況等により変更する可能性があります。

今シーズンも後半に入りました。このような状況ではありますが、ボランティアの皆様には、可能な範囲でのご協力をいただければと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、今年2月に予定していた「尾瀬ボランティア総会・交流会」の中止に始まり、新たに尾瀬ボランティアへの登録を希望する方に受講していただく研修である「尾瀬ボランティア講座」が実施できなかったことは、本当に残念です。今後、事態が収束し、ボランティアの皆様がこれまで以上に充実することを願ってやみません。



▲昨年度のありがとう尾瀬清掃活動の様子（尾瀬ヶ原）

設置予定のシカ柵試作品を見てきました

尾瀬では、ニホンジカによるニッコウキスゲ等の食害が深刻になっており、貴重な植生を保護するために、様々な取組みが行われています。尾瀬ヶ原（研究見本園）では、群馬県によるシカ柵の設置が予定されており、事務局のボランティア担当が、群馬県林業試験場に設置されている試作品を見せていただきました。

来年度以降、ボランティアの皆様のご協力をいただきながら設置等の作業を実施できればと考えています。



尾瀬ボランティアの皆様のご協力の下、尾瀬の自然環境の保全に向けて様々な活動を行っています。興味を持たれましたら是非、当財団までご連絡下さい！

お知らせ

尾瀬自然解説ガイドの中止について

■ ガイド実施の中止について

例年、5月下旬～10月の三連休前までの間で実施している「尾瀬自然観察ガイド」ですが、今シーズンは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しないこととしました。

来シーズン、実施日程が決まりましたら財団ホームページにてご案内いたしますので、是非ご利用ください。

なお、ご利用は事前予約制です。また、入山の分散化を図る観点から、混雑期（ミズバショウ・ニッコウキスゲ・草紅葉が見頃を迎える時期）の土日祝日は除外させていただきます。

■ 尾瀬自然解説ガイドとは？

今年度は実施しませんが、尾瀬自然解説ガイドについてご紹介します。

このガイド事業は、尾瀬の四季それぞれの美しい姿を尾瀬を訪れる多くの人々にわかりやすく紹介し、自然やそれを守る取り組みへの理解を深め、貴重な自然により深く触れていただくお手伝いをするものです。

ガイドは、尾瀬ボランティアの一部の方に担っています。ご案内するコースは、山の鼻ビジターセンター発着の4コースおよび尾瀬沼ビジターセンター発着の2コースです。

お問い合わせ先

（公財）尾瀬保護財団

TEL：027-220-4431 / FAX：027-220-4421

E-mail：guide@oze-fnd.or.jp

尾瀬の ミニ観察

総集編 7

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えた、フラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第7回をお送りします。

◎ ミズバショウ：雪に守られて

ミズバショウを含めサトイモ科の植物は熱帯を起原としている。同じ科のサトイモやコンニャクの種芋は、秋に畑から掘り出され、納屋でワラなどをかけられて、寒さに害されないよう守られている。

ミズバショウも同様に、雪という布団をかぶって冬を過ごす。雪の上は零下二桁の寒さでも、雪の下は地熱に暖められ0度よりは下がらず、ぬくぬくと春を待っている。だが雪のない太平洋側には、分布しない。芽が寒中の気温にさらされて枯れ、子孫が残せないからだ。

【第25回 vol.29 2016.3掲載】



◎ ヒツジグサ：性転換する花

木道にかがんで花を間近から見てください。黄色い雄しべが四方に広がっている花（写真左）と、花の中央に集まっている花（写真右）があるはずです。

前者は開花初日の花で、中央に花粉を受ける透明な液があり、雌花の状態です。後者は開花2日目で、花粉を出した雄しべが花の中央に集り、雄花として機能しています。ヒツジグサは、同一の花が雌から雄に性転換して、近親婚になる同花受粉を避けているのです。

【第26回 vol.30 2016.6掲載】



◎ ミズバショウと熊

ミズバショウの実が熟すと、木道の上やそのわきに大きく黒い熊の糞が目立つようになる。

糞の表面をよく見ると、茶色い殻のようなものが多数貼り付いている。これはミズバショウの種子の殻だ。糞を掻き分けると、無傷の種子も出てくる。それをミズゴケの上に撒いておいたら、10個中7個から芽が出て、若いミズバショウに育った。

ミズバショウの種子は水に浮いて散るが、熊に食われて峠越えもするのだと、この小実験で明らかにできた。

【第27回 vol.31 2016.9掲載】



◎ ミツバチを増やすな

サワギキョウの花はマルハナバチ媒花だが、セイヨウミツバチも訪れる。だがミツバチは雄しべ雌しべ（矢印）に触れずに吸蜜し、この花には迷惑な昆虫である。

第2次尾瀬総合学術調査ではサワギキョウの花で、300分間に100匹以上のミツバチが記録された。湿原近くまでミツバチが持ち込まれていたのだろう。1994年からの第3次調査では250分以上観察したがミツバチは来なかった。マルハナバチ媒花の多い尾瀬では花々に悪影響のあるミツバチを侵入させない施策が必要だ。

【第28回 vol.32 2016.12掲載】



寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局(☎027-220-4431)にお問い合わせください。

「尾瀬ごみ持ち帰り運動」横断幕を掲示しました。

尾瀬が発祥と言われている「ごみ持ち帰り運動」の啓発を目的とした横断幕を、鳩待峠・大清水入山口に掲示しました。

今回、新たに協賛いただける企業様を募り、国立公園の景観に配慮した自然なデザインのものを作成しましたので、入山される際には、是非目に留めていただければと思います。

今シーズンはどれくらいの方々をお迎えすることができるのか、今から楽しみです。



特別協賛寄付者のご紹介 ※7月31日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 2,396,790円

顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井商事(株)

糸井商事株式会社
通算寄付額 4,800,000円

環境貢献企業
50th Anniversary
ご縁に育てられて半世紀

エコ計画

尾瀬の豊かな自然環境の保護に貢献して参ります

株式会社エコ計画
通算寄付額 4,000,000円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社
通算寄付額 900,000円



株式会社福島銀行 通算寄付額 61,558,006円



株式会社明治 通算寄付額 2,750,000円



アセットマネジメントOne 株式会社
通算寄付額 36,888,492円

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。

平成19年より今回が14回目のご寄付となります。

通算寄付額 73,776,983円



株式会社群馬銀行 通算寄付額 34,674,442円



第四銀行

株式会社第四銀行 通算寄付額 6,792,388円



第四北越証券株式会社
通算寄付額 1,852,385円



すべてを地域のために 東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 13,449,860円

協賛寄付者のご紹介

※7月31日現在、五十音順、敬称略



株式会社クラブツーリズム
通算寄付額 750,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額 1,000,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 2,000,000円



KDDI株式会社

通算寄付額 336,700円



スマーク伊勢崎
通算寄付額 500,000円



利根郡信用金庫

利根郡信用金庫 通算寄付額 3,745,390円



株式会社とりせん 通算寄付額 2,578,562円



NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,400,000円



水上高原ホテル200
Minakami Kogen (水上高原リゾート株式会社)
Hotel 200 通算寄付額 1,900,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和2年2月1日～令和2年7月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

板橋 勇人、尾崎 喜一、NPO法人尾瀬愛しむ会、小花 光雄、堀木 紀美子、割田 甚一

表紙の風景

夕暮れに映える一輪のニコウキスゲ。一日花の役割を終え、沈みゆく太陽とともに最後の輝きを放っているように見えます。

エモい、もとい、えも言われぬ儚さに思わず感傷的になりそうな一枚ですが、広い高原を染め上げる群落は咲き誇る花弁を日々あらたにしながら、私たちを楽しませてくれます。



表紙写真：研究員本園のニコウキスゲ 撮影日：令和2年7月9日

イベント情報

第24回 NHK「わたしの尾瀬」写真展

入場無料

※予定は変更になる場合があります。

胎内展

- 期間
9月19日(土)～9月27日(日)
午前9時～午後5時30分
- 会場
胎内市産業文化会館
(新潟県胎内市新和町2-5)

中之口展

- 期間
10月17日(土)～10月25日(日)
午前9時～午後4時30分
- 会場
中之口先人館
(新潟県新潟市西蒲区中之口363)

見附展

- 期間
11月27日(金)～12月6日(日)
休館日：11月30日(月)
午前10時～午後10時(入場受付は午後9時30分まで)
※最終日は16時まで
- 会場
みつけ市民ギャラリー「ギャラリーみつけ」
(新潟県見附市昭和町2-4-1)

第25回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテストは、実施を見合わせることとなりました。来年度の実施に向けて努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



尾瀬公式インスタグラム Instagram

本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn

友の会 コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は、年4回(5月・8月・11月・2月)です

※11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料割引：入浴料割引

対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

昨年の梅雨も長かったですが、今年の梅雨も長い。梅雨明け後は一転して盛夏期を迎える可能性が高いそうです。初夏らしい爽やかな日和は何処へやら。例年と大きく違ったスタートを切ったシーズンですが、尾瀬の中で暮らす動植物たちにとっては、どのように映っているのでしょうか。(塚越)



OZE Mobile 緊急情報・お知らせ・ライブ配信 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

@oze_info



本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。